

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン タイショウダイガク 学校法人大正大学								
フリガナ大学の名称	タイショウダイガク 大正大学 (Taisho University)								
大学本部の位置	東京都豊島区西巣鴨3丁目20番1号								
大学の目的	教育基本法及び学校教育法に従い、仏教精神「智慧と慈悲の実践」により人間を総合的に理解し、人類の福祉に貢献する人材を養成すること								
新設学部等の目的	心理学・臨床心理学の基礎的知見に基づき、人間の多様なあり方を理解し、周囲と円滑なコミュニケーションを形成しつつ幅広い社会領域で貢献できる人材を養成する								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	臨床心理学部 臨床心理学科 [Faculty of Clinical Psychology] [Department of Clinical Psychology]	年	人	年次人 3年次 2	人	学士（臨床心理学） 【Bachelor of Clinical Psychology】	文学関係	令和6年4月第1年次 令和8年4月第3年次	東京都豊島区西巣鴨3丁目20番1号
	計		110	3年次 2	444				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	<p><u>社会共生物学部（廃止）</u> 公共政策学科 (△130) 社会福祉学科 (△65) (3年次編入学定員) (△2) ※令和6年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止)</p> <p><u>心理社会学部（廃止）</u> 人間科学科 (△120) (3年次編入学定員) (△2) 臨床心理学科 (△110) (3年次編入学定員) (△2) ※令和6年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止)</p> <p>地域創生学部公共政策学科 (100) (令和5年4月届出) 人間学部人間科学科 (120) (令和5年4月届出) 人間学部社会福祉学科 (65) (令和5年4月届出) 表現学部メディア表現学科 (155) (令和5年4月届出)</p> <p>表現学部表現文化学科〔定員減〕 (△125) (令和6年4月)</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	臨床心理学部 臨床心理学科	講義	演習	実験・実習	計				
		66科目	39科目	6科目	111科目	124単位			

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新	臨床心理学部 臨床心理学科	6 (6)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	121 (121)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	14 (14)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	6 (6)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	14 (14)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	6 (6)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	14 (14)			
設	地域創生学部 公共政策学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	128 (128)	※令和5年4月届出済み
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
分	人間学部 人間科学科	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	137 (137)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新	人間学部 社会福祉学科	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	133 (133)	※令和5年4月届出済み
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			
計	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)				
設	表現学部 メディア表現学科	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	160 (160)	※令和5年4月届出済み
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)			大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)			
計	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)				
分	計	33 (33)	9 (9)	10 (10)	0 (0)	52 (52)	0 (0)	— (—)	
既	地域創生学部 地域創生学科	7 (7)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	129 (129)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	17 (17)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	7 (7)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	17 (17)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	7 (7)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	17 (17)			
計	7 (7)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	17 (17)				

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の員 (助手を除く)
		教授	准教授	講師	助教	計		
既	表現学部 表現文化学科	5 (5)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	167 (167)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	10 (10)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	5 (5)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	10 (10)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	5 (5)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	10 (10)			
設	文学部 日本文学科	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	138 (138)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)			
設	文学部 人文学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	130 (130)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
分	文学部 歴史学科	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	140 (140)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)			

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
既	仏教学部 仏教学科	9 (9)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	176 (176)		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	20 (20)	/	/		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	9 (9)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	20 (20)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	9 (9)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	20 (20)				
	総合学修支援機構DAC	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	5 (5)			0 (0)	3 (3)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	5 (5)			/	/
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	5 (5)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計（a～d）	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	5 (5)					
教職支援センター	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)			
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	/	/			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
小計（a～b）	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計（a～d）	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)					
エンロールメント・マネジメント研究所	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)			0 (0)	0 (0)	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)			/	/	
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計（a～d）	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)					

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
計		42 (42)	26 (26)	19 (19)	3 (3)	90 (90)	0 (0)	— (—)		
合計		75 (75)	35 (35)	29 (29)	3 (3)	142 (142)	0 (0)	— (—)		
職種		専属			その他		計			
事務職員		99人 (99)			53人 (53)		152人 (152)			
技術職員		0 (0)			0 (0)		0 (0)			
図書館職員		7 (7)			10 (10)		17 (17)			
その他の職員		0 (0)			0 (0)		0 (0)			
指導補助者		0 (0)			0 (0)		0 (0)			
計		106 (106)			63 (63)		169 (169)			
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計			
	校舎敷地	68,904.84㎡	0㎡		0㎡		68,904.84㎡			
	その他	5,035.94㎡	0㎡		0㎡		5,035.94㎡			
	合計	73,940.78㎡	0㎡		0㎡		73,940.78㎡			
校舎		専用	共用		共用する他の学校等の専用		計			
		59,479.93㎡ (59,479.93㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		59,479.93㎡ (59,479.93㎡)			
教室・教員研究室		教室	150室		教員研究室		14室			
						大学全体				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊		電子図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点
	臨床心理学部 臨床心理学科	9,666 [2,546] (9,351 [2,531])	20 [0] (20 [0])		177 [41] (177 [41])		9,807 [9,807] (9,807 [9,807])		0 (0)	0 (0)
	計	9,666 [2,546] (9,351 [2,531])	20 [0] (20 [0])		177 [41] (177 [41])		9,807 [9,807] (9,807 [9,807])		0 (0)	0 (0)
	スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂		厚生補導施設			
		1,325.79㎡		0㎡		5,692.11㎡				
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	—千円	—千円		
	共同研究費等		11,000千円	11,000千円	11,000千円	11,000千円	—千円	—千円		
	図書購入費	3,100千円	3,100千円	3,100千円	3,100千円	3,100千円	—千円	—千円		
	設備購入費	13,800千円	13,800千円	13,800千円	13,800千円	13,800千円	—千円	—千円		
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
			1,412千円	1,412千円	1,412千円	1,412千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		寄付金、雑収入 他								

大学等の名称	大正大学							所在地		
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率			開設年度
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	仏教学部	4	100	3年次 33	466		0.92	平成22	東京都豊島区西巢鴨 三丁目20番1号 同上	※令和4年度より編入学定員増加
	仏教学科	4	100	33	466	学士（仏教学）	0.92	平成22		
	社会共生学部	4	195	3年次 2	784		0.91	令和2	同上	
	公共政策学科	4	130	-	520	学士（公共政策学）	0.89	令和2	同上	
	社会福祉学科	4	65	2	264	学士（社会福祉学）	0.94	令和2	同上	
	人間学部	4	-	3年次 -	-		-	平成5	同上	※令和2年度より学生募集停止 （社会福祉学科、人間環境学科、教育人間学科）
	社会福祉学科	4	-	-	-	学士（社会福祉学）	-	平成5	同上	
	人間環境学科	4	-	-	-	学士（人間環境学）	-	平成23	同上	
	教育人間学科	4	-	-	-	学士（教育人間学）	-	平成23	同上	
	心理社会学部	4	230	3年次 4	928		1.17	平成28	同上	
	人間科学科	4	120	2	484	学士（人間科学）	1.07	平成28	同上	
	臨床心理学科	4	110	2	444	学士（臨床心理学）	1.27	平成28	同上	
	文学部	4	295	3年次 6	1192		1.10	平成15	同上	
	人文学科	4	65	2	265	学士（人文学）	1.12	平成22	同上	
	日本文学科	4	70	2	282	学士（日本文学）	1.15	平成27	同上	
	歴史学科	4	160	2	645	学士（歴史学）	1.07	平成15	同上	
	表現学部	4	205	3年次 -	820		1.12	平成22	同上	
	表現文化学科	4	205	-	820	学士（表現文化）	1.12	平成22	同上	
	地域創生学部	4	100	3年次 -	400		0.99	平成28	同上	
	地域創生学科	4	100	-	400	学士（経済学）	0.99	平成28	同上	

	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地	
既 設 大 学 等 の 状 況	仏教学研究科									
	仏教学専攻									
	博士前期課程	2	30	-	60	修士（仏教学）	0.75	平成13	東京都豊島区西巢鴨 三丁目20番1号 同上	
	博士後期課程	3	7	-	21	博士（仏教学）	0.76	平成13		
	人間学研究科									
	社会福祉学専攻									
	修士課程	2	5	-	10	修士（社会福祉学）	0.60	平成13	同上	
	臨床心理学専攻									
	修士課程	2	18	-	36	修士（臨床心理学）	0.97	平成13	同上	
	人間科学専攻									
	修士課程	2	3	-	6	修士（人間科学）	0.00	平成13	同上	
	福祉・臨床心理学専攻									
	博士後期課程	3	3	-	9	博士（人間学）	0.00	平成13	同上	
	文学研究科									
	宗教学専攻									
	博士前期課程	2	5	-	10	修士（文学）	1.40	昭和27	同上	
	博士後期課程	3	2	-	6	博士（文学）	0.67	昭和32	同上	
	史学専攻									
	博士前期課程	2	10	-	20	修士（文学）	0.95	昭和54	同上	
	博士後期課程	3	2	-	6	博士（文学）	0.67	昭和54	同上	
国文学専攻										
博士前期課程	2	3	-	6	修士（文学）	0.83	昭和27	同上		
博士後期課程	3	2	-	6	博士（文学）	0.00	昭和32	同上		
比較文化専攻										
博士前期課程	2	-	-	-	修士（文学）	-	平成9	同上	※令和3年 度より学生 募集停止 （比較文化 専攻（修・ 博））	
博士後期課程	3	-	-	-	博士（文学）	-	平成11	同上		

附属施設の概要	<p>名 称 : 総合仏教研究所</p> <p>目 的 : 本学の設立理念である仏教精神の体現を基盤として、仏教とその文化に関する研究及び有為な研究者の育成を行う。</p> <p>所在地 : 東京都豊島区西巣鴨 3 丁目 20 番 1 号</p> <p>設置年月 : 昭和 32 年 4 月</p> <p>規模等 : 259.26㎡ (教室・研究棟の一部)</p>	
	<p>名 称 : カウンセリング研究所</p> <p>目 的 : 本学の設立理念である仏教精神の体現を基盤として、カウンセリングの理論・技法及びその実践に関する教育と研究を行う。</p> <p>所在地 : 東京都豊島区西巣鴨 3 丁目 20 番 1 号</p> <p>設置年月 : 昭和 38 年 4 月</p> <p>規模等 : 296.13㎡ (教室・研究棟の一部)</p>	
	<p>名 称 : 地域構想研究所</p> <p>目 的 : 地域課題解決のための基礎研究を行い、地域創生のための新しい価値を「共創」することによって地域や社会に貢献する。</p> <p>所在地 : 東京都北区滝野川 6 丁目 2 番 3 号</p> <p>設置年月 : 平成 26 年 10 月</p> <p>規模等 : 511.28㎡ (研究棟の一部)</p>	
	<p>名 称 : エンローラメント・マネジメント研究所</p> <p>目 的 : 学生の入学前から卒業後までの一貫した情報を収集・分析・提供し、教育・研究・社会貢献等の企画・立案・支援を行い、本学のみならず大学教育全体に貢献する。</p> <p>所在地 : 東京都豊島区西巣鴨 3 丁目 20 番 1 号</p> <p>設置年月 : 平成 29 年 10 月</p> <p>規模等 : 62.03㎡ (本部棟の一部)</p>	

教育課程等の概要																
(臨床心理学部臨床心理学)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員
第Ⅰ類科目	人間の探究Ⅰ	1①		2			○							18	共同	
	人間の探究Ⅱ	1②		2			○							18	共同	
	人間の探究Ⅲ	1④		2			○							18	共同	
	小計(3科目)	-	-	6	0	0	-			0	0	0	0	0	18	
	社会の探究Ⅰ	1①		2			○							16	共同	
	社会の探究Ⅱ	1②		2			○							16	共同	
	社会の探究Ⅲ	1④		2			○							16	共同	
	小計(3科目)	-	-	6	0	0	-			0	0	0	0	0	16	
	自然の探究Ⅰ	1①		2			○							20	共同	
	自然の探究Ⅱ	1②		2			○							20	共同	
	自然の探究Ⅲ	1④		2			○							20	共同	
	小計(3科目)	-	-	6	0	0	-			0	0	0	0	0	20	
	総合英語Ⅰ	1①		1				○						16	メディア(一部)	
	総合英語Ⅱ	1②		1				○						16	メディア(一部)	
	総合英語Ⅲ	1④		1				○						16	メディア(一部)	
	小計(3科目)	-	-	3	0	0	-			0	0	0	0	0	16	
	データサイエンスⅠ	1①		1				○						15	共同	
	データサイエンスⅡ	1②		1				○						15	共同	
	データサイエンスⅢ	1④		1				○						15	共同	
	データサイエンスⅣ	2①		1				○						17	共同	
データサイエンスⅤ	2②		1				○						17	共同		
データサイエンスⅥ	2④		1				○						17	共同		
小計(6科目)	-	-	6	0	0	-			0	0	0	0	0	17		
リーダーシップⅠ	2①		1				○						6	共同		
リーダーシップⅡ	2③		1				○		1		2			共同		
リーダーシップⅢ	2④		1				○		1		2			共同		
小計(3科目)	-	-	3	0	0	-			1	0	2	0	0	6		
第Ⅱ類科目	全学部 共通	学融合ゼミナールⅠ	2①～②		2			○			1	1	1		4	オムニバス・共同
		学融合ゼミナールⅡ	3①～②		2			○			1	2			4	オムニバス・共同
	小計(2科目)	-	-	4	0	0	-			1	3	1	0	0	4	
	基 礎 部	心理学概論	1①③	○	2			○			1				1	メディア
		臨床心理学概論	1②④	○	2			○			1				1	
		心理学的支援法	2②		2			○				1				メディア
	小計(3科目)	-	-	4	2	0	-			2	1	0	0	0	2	
	調 査 ・ 研 究 法 部	心理学研究法	1①③	○	2			○				2				メディア(一部)
		心理学実験	2①～②③～④		4				○		1	3	2			メディア(一部)・共同
		心理学基礎演習	2①～②③～④		4				○		2	1	1			メディア(一部)・共同
心理学統計法		3①～②③～④		2				○		1	1					
質的研究法		3①～②③～④		2				○		1		1				
小計(5科目)	-	-	2	12	0	-			3	4	3	0	0	0		

教育課程等の概要																	
(臨床心理学部臨床心理学)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
ゼミナール部門	臨床心理学基礎ゼミナールⅠ	1①	○	1					○			3	1	1			
	臨床心理学基礎ゼミナールⅡ	1②	○	1					○			3	1	1			
	臨床心理学基礎ゼミナールⅢ	1③	○	1					○			3	1	1			
	臨床心理学基礎ゼミナールⅣ	1④	○	1					○			3	1	1			
	臨床心理学専門ゼミナールⅠ	3①～②	○	2					○			6	4	4			
	臨床心理学専門ゼミナールⅡ	3③～④	○	2					○			6	4	4			
	臨床心理学専門ゼミナールⅢ	4①～②	○	2					○			6	4	4			
	臨床心理学専門ゼミナールⅣ	4③～④	○	2					○			6	4	4			
小計(8科目)	—	—	—	12	0	0			—			6	4	4			
演習・実習部門	心理的アセスメント	2①			2			○					1				
	心理基礎実習Ⅰ	2①～②	○	1						○		2		1			共同
	心理基礎実習Ⅱ	2③～④	○	1						○		2		1			共同
小計(3科目)	—	—	—	2	2	0			—			2	1	1			
関連領域部門	公認心理師の職責	2②			2			○					1				メディア
	知覚・認知心理学	1③			2			○									1
	学習・言語心理学	1休			2			○									1
	感情・人格心理学	1③			2			○									1
	社会・集団・家族心理学	1③			2			○									1
	神経・生理心理学	2②			2			○				1					メディア
	発達心理学	2③			2			○				1					メディア
	障害者・障害児心理学	2④			2			○					1				メディア
	健康・医療心理学	2②			2			○					1				メディア
	福祉心理学	2③			2			○					1				メディア
	教育・学校心理学	2④			2			○						1			メディア
	司法・犯罪心理学	2①			2			○				1					メディア
	産業・組織心理学	2②			2			○						1			メディア
	人体の構造と機能及び疾病	2④			2			○				1					メディア
精神疾患とその治療	2①～②			4			○				1					メディア(一部)	
小計(15科目)	—	—	—	0	32	0			—			4	3	2			3
応用部門	心理療法論A	2・3①			2			○				1					隔年
	心理療法論B	2・3②			2			○						1			メディア(一部)・隔年
	心理療法論C	2・3③			2			○					1				メディア(一部)・隔年
	心理療法論D	2・3④			2			○					1				メディア・隔年
	臨床心理学特論A	3・4①			2			○						1			隔年
	臨床心理学特論B	3・4②			2				○					1			隔年
	臨床心理学特論C	3・4③			2				○			1					隔年
	臨床心理学特論D	3・4④			2				○			1					隔年
小計(8科目)	—	—	—	0	16	0			—			3	2	3			
心理専門職養成プログラム	関係行政論	3③～④			2			○								1	メディア
	心理演習Ⅰ	3①③	○	2					○			1	2	4			共同
	心理演習Ⅱ	3②④	○	2					○			1	2	4			共同
	心理臨床査定演習	4③		2					○			1	2				
	心理臨床技法演習	3・4③		2					○					1			隔年
	心理実習	3通		4						○		3	4	4			共同
小計(6科目)	—	—	—	0	14	0			—			4	4	4			
ライフキャリア・マネジメント	ライフキャリア・マネジメント総論	3①	○	2				○						1			
	ライフキャリア研究	3・4②		2				○					1				隔年
	ファミリーキャリア入門	3・4③		2				○				1					隔年
	青年心理学	3・4④		2				○					1				メディア
	老年心理学	3・4②		2				○				1					隔年
	コミュニケーション心理学	3・4①		2				○						1			隔年
	対人サポート演習	4③		2					○				1	1			共同
	グループプロセス演習	4③		2					○			1	1	1			共同
小計(8科目)	—	—	—	0	16	0			—			3	2	3			
卒業論文	卒業論文	4通	○	8					○			6	4	3			
	卒業研究	4通	○	8					○			6	4	3			
	小計(2科目)	—	—	—	0	16	0			—			6	4	3		

教育課程等の概要																
(臨床心理学部臨床心理学)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
第Ⅲ類科目 アントレプレナーシップ 育成教育プログラム	超スマート社会論	2①～②			2		○								1	メディア
	新共生社会論	2①～②			2		○								1	メディア
	地域人イズム論	2③～④			2		○								1	メディア
	アントレプレナーシップ論	2③～④			2		○								1	メディア
	ロジカルシンキング	3①②④・4①②			2		○								2	
	データ分析技法	3①②④・4①②			2		○								1	
	プログラミングの基礎	3①②④・4①②			2		○								1	
	ファイナンスの基礎	3①②④・4①②			2		○								1	
	財務会計の基礎	3①②④・4①②			2		○								2	
	マーケティングの基礎	3①②④・4①②			2		○								2	
	言語表現技術Ⅰ	3①②④・4①②			2		○								2	
	言語表現技術Ⅱ	3①②④・4①②			2		○								1	
	情報表現技術Ⅰ	3①②④・4①②			2		○								1	
	情報表現技術Ⅱ	3①②④・4①②			2		○								1	
	キャリア探究A	3①②④・4①②			2		○								1	
	キャリア探究B	3①②④・4①②			2		○								1	
	キャリアデザインA	3①②④・4①②			2		○								4	
	キャリアデザインB	3①②④・4①②			2		○								3	
	コミュニケーション	3①②④・4①②			2		○								2	
	リーダーシップ	3①②④・4①②			2		○								1	
	ファシリテーション	3①②④・4①②			2		○								3	
	プレゼンテーション	3①②④・4①②			2		○								3	
	マネジメント	3①②④・4①②			2		○								1	
	ビジネス英語	3①②④・4①②			2										1	
	ビジネス中国語	3①②④・4①②			2				○						1	
	マイスターワークショップ	3・4			6				○						15	
	マイスターフィールドワーク	3・4			6				○						1	
	マイスターインターンシップ	3・4			6					○					1	
短期留学	3・4			6						○				1		
海外インターンシップ	3・4			6							○			1		
小計 (30科目)		—	—	0	80	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	45
合計 (111科目)		—	—	54	190	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	121
学位又は称号	学士 (臨床心理学)			学位又は学科の分野			文学関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
第Ⅰ類科目30単位以上、第Ⅱ類科目70単位以上（必修科目を含む）、第Ⅲ類科目24単位以上、合計124単位以上修得すること。第Ⅲ類科目のうち、超スマート社会論、新共生社会論、地域人イズム論、アントレプレナーシップ論から4単位選択必修。ただし、第Ⅱ類科目として履修した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。 卒業論文・卒業研究については、8単位選択必修。 (履修科目の登録の上限：12単位 (1クォーター))							1学年の学期区分					4学期				
							1学期の授業期間					7週				
							1時限の授業の標準時間					100分				

授 業 科 目 の 概 要				
(臨床心理学部臨床心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅰ類 科目	人間の探究Ⅰ		「人間の探究」は3クォーター(合計6単位:100分授業×週2回)にわたって開講する。第1クォーターに開講される「人間の探究Ⅰ」は、人間が蓄積してきた知の総体である「文化」(文学・歴史・思想・心理・宗教・芸術など)について学びながら、世界や日本、地域、そして他者・自己を顧る視点を養うとともに、自らの生き方について考えを深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。講義とグループワークのなかで、担当教員が設定したテーマに関する基礎的な知識を身につけることをめざす。また、同時に講義とグループワークのなかで他者と対話することを通じて、大学で学ぶ仲間をつくり、自己理解を深め、自ら学ぶ姿勢を整える。「人間の探究Ⅰ」では、高校の学びから大学の学びへの転換を図るため、今の自分の現状を把握する。	共同
	人間の探究Ⅱ		第2クォーターに開講する。「人間の探究Ⅰ」に引き続いて、人間が蓄積してきた知の総体である「文化」(文学・歴史・思想・心理・宗教・芸術など)について学びながら、世界や日本、地域、そして他者・自己を顧る視点を養うとともに、自らの生き方について考えを深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。「人間の探究Ⅰ」で学んだスキルや知識を活用しつつ、担当教員が設定したテーマについて理解を深めることをめざす。最終的には、これまでの学びや自己理解をふまえて、「大学で学ぶことの意味」をテーマとしたレポートを作成する。	共同
	人間の探究Ⅲ		第4クォーターに開講する。「人間の探究Ⅱ」に引き続いて、人間が蓄積してきた知の総体である「文化」(文学・歴史・思想・心理・宗教・芸術など)について学びながら、世界や日本、地域、そして他者・自己を顧る視点を養うとともに、自らの生き方について考えを深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。これまでの経験や学びをふまえて、人間というテーマについてさらに見聞や洞察を広げ深めるとともに、それらを統合することをめざす。最終的には、自分が世界や社会、他者とどうつながり貢献していくかを考え、「未来計画書」を作成する。	共同
	社会の探究Ⅰ		「社会の探究」は3クォーター(6単位:100分授業×週2回)にわたって開講する。第1クォーターに開講する「社会の探究Ⅰ」は、変動の激しい現代社会をさまざまな観点から理解するとともに、私たちが他者と協働しながら、いかに理想的な社会を実現していくかについて学ぶことを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。授業を通して、社会の課題を発見するために必要な情報を収集・分析する力、本質を見極めて解決策を考える力を養うとともに、他者に伝える表現力、責任をもって課題に取り組む主体性を身につけることをめざす。また「社会の探究Ⅰ」では、「社会の探究Ⅱ」で展開される「ミニプロジェクト」に取り組むための助走期間と位置付ける。グループワークを通じて現代社会の課題を「自分ごと」として捉える視座を身につけ、プレゼンテーションのスキルを学びながら、仲間と協働する姿勢を整える。	共同
	社会の探究Ⅱ		第2クォーターに開講する。「社会の探究Ⅰ」に引き続いて、変動の激しい現代社会をさまざまな観点から理解するとともに、私たちが他者と協働しながら、いかに理想的な社会を実現していくかについて学ぶことを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。人権や経済という切り口から現代社会の課題に「自分ごと」として関わる態度を身につけるとともに、地域(local)の視座に立った「ミニプロジェクト」をおこなう。他者との協働、情報の収集、課題の発見・問題の解決、プレゼンテーションに取り組むことで、チームづくりに必要な力を深める。	共同
	社会の探究Ⅲ		第4クォーターに開講する。「社会の探究Ⅱ」に引き続いて、変動の激しい現代社会をさまざまな観点から理解するとともに、私たちが他者と協働しながら、いかに理想的な社会を実現していくかについて学ぶことを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。これまでの学びを統合しながら、地域(local)における課題に「自分ごと」としてかわり、その解決策をより多角的な観点から考察を深めることをめざす。具体的には、チームの仲間とともに「ファイナルプロジェクト」を完成させて、プレゼンテーションをおこなう。	共同
自然の探究Ⅰ			「自然の探究」は3クォーター(6単位:100分授業×週2回)にわたって開講する。第1クォーターに開講する「自然の探究Ⅰ」は、地球環境をめぐるさまざまな問題を多角的に検討するとともに、自然環境と人間活動とのかかわりについて洞察を深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。また「自然の探究」では、論理的な思考力を涵養し、大学での学びに必要な文章作成力を身につけることをめざす内容も展開される。「自然の探究Ⅰ」では思考や表現・表記について学ぶとともに、大学のレポートと高校までの感想文との相違など、レポート作成上の基礎について理解を深める。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（臨床心理学部臨床心理学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第 I 類 科 目	自然の探究Ⅱ		第2クォーターに開講する。「自然の探究Ⅰ」に引き続いて、地球環境をめぐるさまざまな問題を多角的に検討するとともに、自然環境と人間活動とのかかわりについて洞察を深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。「自然の探究Ⅱ」では、担当教員が設定したテーマについて理解を深めるとともに、レポート作成のトレーニングに力を入れる。とくに、発想力や読解力といったレポート・論文を書くための基礎能力を身につけることをめざす。	共同
	自然の探究Ⅲ		第4クォーターに開講する。「自然の探究Ⅱ」に引き続いて、地球環境をめぐるさまざまな問題を多角的に検討するとともに、自然環境と人間活動とのかかわりについて洞察を深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。「自然の探究Ⅲ」はこれまでの学びの統合が果たされる。つまり自然環境と人間活動とのかかわりについての知識と、論理的な思考力や文章作成力にもとづいて、一年間の学びの集大成としてアカデミックエッセイを執筆することをめざす。	共同
	総合英語Ⅰ		「総合英語」では、年間を通して一貫した方針の下、対面授業とオンデマンド型授業を組み合わせることによって、総合的な英語力の育成を目的とする。対面授業では、多様なトピックの中から語彙や表現を学び、ペアワークやグループワーク、発表といった活動を通じてコミュニケーションに必要な英語力を身につけるとともに、大学生として必要なリーディング力の強化を図る。eラーニングシステムを使ったオンデマンド型授業では、語彙や文法、リスニング・リーディング演習をおこない、自律的な英語学習を促しながら情報収集や意見の発信に必要な英語力を強化する。	メディア（一部）
	総合英語Ⅱ		「総合英語」では、年間を通して一貫した方針の下、対面授業とオンデマンド型授業を組み合わせることによって、総合的な英語力の育成を目的とする。対面授業では、多様なトピックの中から語彙や表現を学び、ペアワークやグループワーク、発表といった活動を通じてコミュニケーションに必要な英語力を身につけるとともに、大学生として必要なリーディング力の強化を図る。eラーニングシステムを使ったオンデマンド型授業では、語彙や文法、リスニング・リーディング演習をおこない、自律的な英語学習を促しながら情報収集や意見の発信に必要な英語力を強化する。	メディア（一部）
	総合英語Ⅲ		「総合英語」では、年間を通して一貫した方針の下、対面授業とオンデマンド型授業を組み合わせることによって、総合的な英語力の育成を目的とする。対面授業では、多様なトピックの中から語彙や表現を学び、ペアワークやグループワーク、発表といった活動を通じてコミュニケーションに必要な英語力を身につけるとともに、大学生として必要なリーディング力の強化を図る。eラーニングシステムを使ったオンデマンド型授業では、語彙や文法、リスニング・リーディング演習をおこない、自律的な英語学習を促しながら情報収集や意見の発信に必要な英語力を強化する。	メディア（一部）
	データサイエンスⅠ		演習方式で行う。「データサイエンス」とはデータを用いて新たな科学的および社会に有益な知見を引き出そうとするアプローチのことであり、もはやデータサイエンスがなければ世の中が成り立たないと言っても過言ではない。「データサイエンス」科目では、自らとデータサイエンスとつなぐ道を開くために、データとは何なのか、データを活用するとはどういうことなのかを学ぶ講義を開催する。データサイエンスⅠでは、データサイエンスとは何かを学び、更に身近な事例や社会で活用されている事例を通してデータを活用するスキルの必要性を理解すると同時に統計学の基礎知識を習得する。またPCやデータを利用する際に必要となる情報リテラシーについても学ぶ。演習では統計の基礎知識と連動してExcelの基本操作を習得する。	共同
	データサイエンスⅡ		演習方式で行う。データサイエンスⅡでは、世の中におけるデータサイエンスの現状や及ぼす影響等について幅広く学び、どのような手段、手法、仕組みを通じて有効に活用できるかを学ぶ。さらにはAIについて、体験型のワークを通して、AI活用のイメージを明確にしたうえで、AI可能性や面白さを知り、AIの今後の活用の可能性について理解を深める。演習では統計学の基礎知識からのデータの扱い方、データのばらつきと傾向の表し方、さらにはグラフの読み取りと表現方法をExcelスキル習得と合わせて学ぶ。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(臨床心理学部臨床心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅰ 類 科 目	データサイエンスⅢ		演習方式で行う。データサイエンスⅢでは、tableauを活用してデータを探索的に分析し、わかりやすく可視化して伝達する基本スキルを習得すると同時に、データ分析から課題解決につながる課題抽出力の基礎を学ぶ。さらにはBIツールのベースとして使われているデータベースの仕組みやデータの型、データ属性なども含めて学ぶ。	共同
	データサイエンスⅣ		演習方式で行う。データサイエンスⅣの「問題解決型ミッション」やデータサイエンスⅥの「価値創造型ミッション」に取り組む前提として、tableauを活用して目的に合致した実用的なチャート、適切なグラフ表現、さらには効果的なダッシュボード作成を目指す。tableauの演習ではデータに対して適切なグラフの種類を選び方と各グラフの留意点を習得し、基本的なビジュアライゼーションが作成するスキルを身につける。また世の中でAIが活用されている事例を幅広く知り、常に進化する技術の動向についても関心と理解を深めた上で、AI活用社会の未来について理解と想像力を高める。	共同
	データサイエンスⅤ		演習方式で行う。「問題解決型ミッション形式」にて社会の課題解決力の習得を目指す。「問題解決」とは「理想の姿」を実現するために「現実とのギャップ」を埋めることである。企業のデータを活用し、企業の抱える問題に対してどのように解決を図るのかを、データ分析から仮説を導き出し、さらには解決策の提案まで行う力を身につける。tableauの演習では複数テーブルの扱いを含むデータの整形および計算式における条件分岐の記述、さらに表計算を活用したビジュアライズを習得する。	共同
	データサイエンスⅥ		演習方式で行う。「価値創造型ミッション形式」にて社会の課題解決力の習得を目指す。企業のデータと合わせてオープンデータも活用して、複数のデータ分析から多面的な課題抽出を行い、課題の発見と解決策の構築について、演習を通じて学び、提言につながる学修をおこなう。Tableauの演習ではダッシュボードをインタラクティブにする方法を学ぶ他、聴き手にスピーディに正しく情報を伝達するために必要な考え方やスキルを習得する。データサイエンスⅥ終了時には様々なデータからの統計分析や論理的な思考スキルを身に付け、課題の発見や解決、社会への価値創造につながる仮説を構築する力を習得する。	共同
	リーダーシップⅠ		演習方式で行う。適宜、議論・討論やプレゼンテーションを交え、アクティブラーニングで実施する。現代日本社会には地域活性化や福祉の充実、自然の再生など、取り組むべき多くの課題がある。これらの課題にはいくつもの要因が複雑に絡まり、その解決・実現には人と人との多様なアイデアをもち寄り、協働することが必要となる。こうした現代社会を生き、自身の出会う課題と向かい合ううえで注目されているのが、リーダーシップという考え方である。この科目では、こうした「リーダーシップ」についてワークを交えながら経験的に学び、履修者それぞれが自身のリーダーシップ観を知り、またそれを再構成することを目的にする。	共同
	リーダーシップⅡ		演習方式で行う。適宜、議論・討論やプレゼンテーションを交え、アクティブラーニングで実施する。大学卒業後、どのように自分が社会と接続していくのか、意識を高めていく大事な時期である。自分らしいリーダーシップとは何かをさらに深め、社会からの求めに自らがいかに応えるかについてよく考え、社会にエントリーする準備を整えることが、この授業の目的である。リーダーシップⅠを通して深めた自己理解を基盤として、社会に接続していく準備を行う。そのために、社会人として身につけておくべきマナーや学力を理解し、社会で働くことの意義について考える。また、これまでの学業や生活を振り返り、自身が取り組んできたことやこれから挑戦したいことを整理し、社会に向けて自分を表現する準備を行う。	共同
リーダーシップⅢ		演習方式で行う。適宜、議論・討論やプレゼンテーションを交え、アクティブラーニングで実施する。自らの強みを知り、目指すリーダーシップ像に近づいていくために、今後の大学生活をいかに過ごしていくのかを考える機会とし、リーダーシップⅡに引き続いて、社会にエントリーする準備を展開させることがこの授業の目的である。リーダーシップⅠ・Ⅱで取り組んだ自己分析（自分が目指すリーダーシップ像はどのようなものなのか、自分はどのような適性や能力を持っていて、どのような目標や夢を目指すのか）を踏まえて、現時点で興味のある進路について研究を行うことで、卒業後の進路や職業を主体的に考え、キャリアを形成していくことを目指す。	共同	

授 業 科 目 の 概 要					
(臨床心理学部臨床心理学科)					
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
第II類科目	全学部共通	学融合ゼミナールⅠ	<p>講義形式で行う。複数のディシプリンの連携や交流、融合により、異なる分野の専門知を横断的にとらえ、新たな知として形にする力の育成を目指し、クロスディシプリンの実現を目的とする。多面的な性質をもつ地域の課題解決のため、地域創生学ならびに臨床心理学それぞれの立場からの地域支援の理論と実践の学修を通じて、多面的・重層的な思考を修得する。また意見文の執筆を通して、論理的な文章表現やアカデミックライティングを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(5 小堀彩子・9 田附あえか・14 山本渉/14回) (共同) アカデミックライティングやプレゼンテーション並びにコミュニティ心理学概論、家族、児童養護等に関する講義を行う。 (35 大橋重子/1回) 組織行動の観点からみた地域創生学と臨床心理学に関する講義を行う。 (37 高橋若木/1回) 哲学の観点からみた地域創生学と臨床心理学に関する講義を行う。 (84 高柳直弥/1回) 消費者行動の観点からみた地域創生学と臨床心理学に関する講義を行う。 (131 米崎克彦/1回) 行動経済学の観点からみた地域創生学と臨床心理学に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式 共同	
		学融合ゼミナールⅡ	<p>講義形式で行う。学融合ゼミナールⅠの内容をさらに発展させ、地域創生学との連携・交流により、異なる分野の専門知識を横断的にとらえ、臨床心理学における新たな視点を養い、自らの発想を具体的にプレゼンテーションできるようにすることを旨とする。「地域創生学と臨床心理学の融合」では、地域創生学ならびに臨床心理学それぞれの立場からの地域支援の理論と実践の学習を通じて、多面的な思考を修得する。また自らの着想を適切なフォーマットで文章化するアカデミックライティングを習得し、アカデミック・エッセーおよびプレゼンテーションの表現方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(5 小堀彩子・7 石川亮太郎・8 柴田康順/14回) (共同) 学融合ゼミⅠの内容を発展させ、アカデミックライティングやプレゼンテーション並びにコミュニティ心理学概論、地域精神医療に関する講義を行う。 (35 大橋重子/1回) 組織行動の観点からみた地域創生学と臨床心理学に関する講義を行う。 (37 高橋若木/1回) 哲学の観点からみた地域創生学と臨床心理学に関する講義を行う。 (84 高柳直弥/1回) 消費者行動の観点からみた地域創生学と臨床心理学に関する講義を行う。 (131 米崎克彦/1回) 行動経済学の観点からみた地域創生学と臨床心理学に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式 共同	
	基礎部門	心理学概論	○	<p>オンデマンドによる講義形式で行う。テーマは多様な領域の心理学について、その成り立ち、基礎的な概念、研究知見について学習することである。到達目標は心理学の成り立ちについて、重要な人物や理論を整理しながら適切に説明することができること、多様な領域の心理学用語を理解し、それが何を意味しているかについて、自分の言葉でわかりやすく説明できること、人の心や行動の仕組みについて、心理学的に説明できることである。学習の進め方は、配布資料を見ながら動画を視聴し、リアクションペーパーを提出する。テーマによっては別途レポート課題が出る。次回授業ではリアクションペーパーや課題のフィードバックを行う。</p>	メディア
		臨床心理学概論	○	<p>講義形式で行う。臨床心理学における諸分野の基礎的な知識や考え方を身につけることを目的としている。授業内容の構成は、①「こころ」とは何かを多面的にみていくこと、②正常と異常についての捉え方、③臨床心理学の対象となる問題行動、④心理アセスメントという考え方と概要、⑤心理療法の代表的な理論についての紹介、⑥臨床心理学の発展の歴史、⑦地域社会におけるサイコロジストの役割、である。</p>	
		心理学的支援法		<p>オンデマンドによる講義形式で行う。「心理に関する支援を行う際に求められる知識・倫理的姿勢・幅広い視点を理解すること」をテーマとする。講義とワークやグループディスカッションを通し、「代表的な心理療法やカウンセリングの歴史・概念・意義・適応、支援を成り立たせる要因について説明できる」「要支援者の特性や状況に応じた支援方法を選択するために、多面的・多角的な視点を持つことができる」「社会人としての一般的なモラルと倫理を踏まえたうえで、支援を行う際の倫理的姿勢の特質を説明できる」を到達目標とする。主要な心理療法やカウンセリングを概観した上で、現代社会において求められる新たな心理的支援について、その必要性の理解と、倫理的問題、支援の基盤となる対人関係など、心理的支援を成り立たせる要因について理解する。</p>	メディア

授 業 科 目 の 概 要					
(臨床心理学部臨床心理学科)					
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
第II類科目	調査・研究法部門	心理学研究法	○	オンデマンドと対面のハイブリッド型で行う講義科目である。到達目標は、a) 臨床心理学における基本的な研究方法を概観すること、b) 心理学研究法の歴史と倫理について理解すること、c) 心理学研究法の基礎として統計手法による数量データの処理ができるようになること、d) 心理学的測定の基本である統計的な問題分析の意味が理解できること、e) 適切な情報収集の方法を理解できることを到達目標とする。計画として、臨床心理学に特に重要な、調査法、実験法、そして心理統計法の基礎的な方法論について講義する。	メディア（一部）
		心理学実験		オンデマンドと対面のハイブリッド型で行う演習科目である。到達目標は①実験の計画を立てることができる。②実験データの収集および統計処理を適切に行うことができる。③実験の統計解析結果について適切な解釈ができ、報告書を作成することができる。の3点である。授業内容は、実験計画立案に向けて必要な統計処理、心理学レポートの書き方を学ぶため、代表的な心理学実験の追試を行う。	メディア（一部） 共同
		心理学基礎演習		オンデマンドと対面のハイブリッド型で行う演習科目である。到達目標は、①心理学研究の計画を立てることができる。②データ収集及びデータ分析の基礎を学ぶ。③心理学研究レポートの基礎を学ぶ。の3点である。授業内容は、身近な問いを探究することを目指し、検証方法を考え、データ収集し、解釈するための方法を身につける。	メディア（一部） 共同
		心理学統計法		実際にパソコンを使って統計ソフトを操作する演習型の対面授業である。授業の到達目標は、量的研究で卒論を執筆することができるように、①質問票調査を実施する研究計画を立て、実際に質問票を作成して調査を実施できること、②統計ソフトを操作してデータを分析できること、③統計ソフトの出力結果を読み取り、心理学論文形式のレポートを作成できること、である。研究計画を立て、質問票による調査を実施し、得られたデータを統計的に分析する方法について学ぶ。統計的手法を用いる際にそれぞれの分析方法の特徴や使い方について理解を深め、統計ソフトに出力された結果が具体的にどのような意味を持っているのかを考える。最終的には、それぞれの分析結果をまとめ、心理学論文形式のレポートを作成する。	
		質的研究法		実際にインタビュー調査を行ってデータを分析する演習型の対面授業である。授業の到達目標は、質的研究で卒論を執筆することができるように、①インタビュー調査を実施する研究計画を立て、実際にインタビューガイドを作成して調査を実施できること、②調査で得られたデータを分析できること、③分析結果をもとに、心理学論文形式のレポートを作成できること、である。また、講義を通して、代表的な分析手法である「KJ法」「事例ーコード・マトリックス」「M-GTA」「TEA」「SCAT」「計量テキスト分析」について理解する。	
ゼミナール部門	臨床心理学基礎ゼミナールⅠ	○	演習形式で行う。テーマは「臨床心理学を学ぶための基本的な視点を身につける」。臨床心理学に関連する問題領域について基礎となる視点を身につけること、発表やディスカッションなどのやり方を身につけることを目標とする。文献購読や調べ学習、グループ発表などの課題に取り組むことを経験し、それを通じて臨床心理学的なものの考え方の基盤を得る。		
	臨床心理学基礎ゼミナールⅡ	○	演習形式で行う。テーマは「臨床心理学を学ぶための基本的な視点を身につける」。臨床心理学に関連する問題領域について基礎となる視点を身につけること、発表やディスカッションなどのやり方を身につけることを目標とする。文献購読や調べ学習、グループ発表などの課題に取り組むことを経験し、それを通じて臨床心理学的なものの考え方の基盤を得る。		
	臨床心理学基礎ゼミナールⅢ	○	演習形式で行う。テーマは「カウンセリング・心理療法を学ぶための基本的な視点を身につける」。カウンセリングや心理療法に関連する問題領域について基礎となる視点を身につけること、発表やディスカッションなどのやり方を身につけることを目標とする。文献購読や調べ学習、グループ発表などの課題に取り組むことを経験し、それを通じてカウンセリングないし心理療法に通底するものの考え方の基盤を得る。		
	臨床心理学基礎ゼミナールⅣ	○	演習形式で行う。テーマは「カウンセリング・心理療法を学ぶための基本的な視点を身につける」。カウンセリングや心理療法に関連する問題領域について基礎となる視点を身につけること、発表やディスカッションなどのやり方を身につけることを目標とする。文献購読や調べ学習、グループ発表などの課題に取り組むことを経験し、それを通じてカウンセリングないし心理療法に通底するものの考え方の基盤を得る。		

授 業 科 目 の 概 要				
(臨床心理学部臨床心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
ゼミナール部門	臨床心理学専門ゼミナールⅠ	○	演習形式で行う。テーマは「卒業論文を作成するための前段階として、自らの興味・関心に気づき、それらを研究する方法を選定することができる。」「自らの興味／関心を研究仮説の形で表現することができる。」「自らの研究仮説の生成／検証に必要な文献をおおまかに探索することができる。」「自らの研究仮説の検証に必要な方法論を想定することができる。」を目標とし、論文執筆における先行研究の位置づけや、論理展開の仕方について学ぶ。基本的な統計技法について、実際のデータを使って利用法を体得する。	
	臨床心理学専門ゼミナールⅡ	○	演習形式で行う。テーマは「卒業論文を作成するための最終準備段階として、自らの研究仮説の構築をする。」「自らの研修主題に関連する先行研究の文献を適切に収集できる。」「先行研究を的確に内容把握し、自らの研究仮説と関連づけることができる。」「自らの研究仮説を構築し、研究計画を立てることができる。」を到達目標とする。各自の研究主題に即して先行研究をレビューし、自らの研究仮説を生成することができる。	
	臨床心理学専門ゼミナールⅢ	○	演習形式で行う。テーマは「卒業論文の主題と方法論を決定し、具体的な作業を進める。」「これまでに学んできた知識を自らの興味／関心に照らして統合的に活用することができる。」「困難や疑問点について適切な助力を求めることができる。」「計画的な情報収集と分析作業を進めることができる。」を到達目標とする。この授業では、卒業論文の具体的な執筆作業を進める。研究主題および仮説を吟味し、決定する。それに見合う方法論を選定し、調査／実験の計画を立てる。その上で実際の作業を進めていく。	
	臨床心理学専門ゼミナールⅣ	○	演習形式で行う。テーマは「卒業論文を作成する。専門的文献を正確に理解するとともに、自らの問題意識を学術的に論証していくための方法を身に付け、学習成果や考察を的確に表現し、伝達することができる。」「これまでの学びを卒業論文の形で統合することができる。」「自らの研究内容を適切に他者に伝えることができる。」「自らが獲得した今後の課題意識を表現することができる。」を到達目標とする。卒業論文の作成作業を進め、完成させる。合わせて、結果の発表準備を整える。	
第Ⅱ類科目	心理的アセスメント		講義形式で行う。目標は、a) 様々な心理アセスメントの方法論について、その長所・短所および適応範囲を理解すること、b) アセスメントされた情報を集約させ、対象者の問題が維持・悪化されているメカニズムを分析していくケースフォーミュレーションができること、c) 心理アセスメントの結果を客観的に分析でき、適切な文章で考察を執筆できるようになることである。これらの目標を達成させるため、講義に加えてレポート課題等を提示する。	
	心理基礎実習Ⅰ	○	実習形式で行う。テーマは「心理職の実務を知る。幼児発達の実際について、実習を通して体験的に学ぶ」こととする。「様々な実務領域を知り、自らの進路について、より主体的に考えることができるようになる」「幼児の発達に関する実際の、基礎的理解でき、幼児と関わることができるようになる。」を目標とし、様々な領域から公認心理師を中心とした臨床実務家による特別講義を伺い、各領域の実務の実際を知り、人を援助する仕事の本質について考える。社会人としての倫理的姿勢を意識した上で保育園実習に臨み、幼児の発達について、実際の、体験的理解をする。	共同
	心理基礎実習Ⅱ	○	実習形式で行う。テーマは「関連領域の実務の実際を知る。幼児発達の実際」とする。「様々な実務領域を知り、自らの進路について、より主体的に考えることができるようになる。」「幼児の発達に関する実際の、基礎的理解でき、幼児と関わることができるようになる。」を目標とする。心理実習Ⅰに引き続き、様々な領域で仕事をしている公認心理師を中心とした臨床実務家による特別講義を伺い、各領域の実務の実際を知り、人を援助する仕事の本質について考える。年間3回の保育園見学実習を通して、幼児の発達について、実際の、体験的理解をする。	共同
関連領域部門	公認心理師の職責		オンデマンドによる講義形式で行う。授業目標は以下の5点を自分なりの言葉で他者に説明できるようにする。 (1) 公認心理師が社会で担う役割は何か。 (2) 公認心理師はどのような分野でどのような仕事をしているのか。 (3) 公認心理師に課せられる法的な義務および倫理とはなにか。 (4) 支援対象者の「安全の確保」とはなにか。 (5) 「知識および技能」をどう向上させるのか。 公認心理師とはどのような資格か、心理支援に必要な技能(コンピテンシー)とは、心理支援の専門職になるために・心理支援の専門職として働くために、公認心理師の法的義務と倫理、支援を必要としている人の視点に立ち、安全を守る、情報の適切な取り扱い、チームや地域で連携して働く、5分野における公認心理師の具体的な業務について講義する。	メディア

授 業 科 目 の 概 要				
(臨床心理学部臨床心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第II類科目 関連領域部門	知覚・認知心理学		講義形式で行う。心理学の基礎である知覚および認知を取り上げ、日常生活における身近な現象を例示しながら授業を進める。簡単な実験を通して、心理学の理論を体感するとともに、人のものの見方やとらえ方への理解が深まることを目的とする。到達目標は、①心理学の知覚および認知に関する知識を修得することができる。②ものの感じ方、とらえ方の多様性について説明することができる。③他者の行動を解釈および予測することができる。④他者との関わりの中で、柔軟な対応が可能である。の4点である。	
	学習・言語心理学		講義形式で行う。臨床心理実践において必須となる人間理解に当たり、学習（人間の行動が変化する過程）と言語の習得におけるメカニズムを学ぶ。到達目標は、①学習・言語習得のプロセスを説明することができる②学習・言語習得のプロセスと臨床心理実践における心理的問題とのつながりを説明できる③受講で生じた疑問などについて、自ら調べる、質問するなど、積極的な学びを実践できる④自らの学びのプロセスを自覚し、単なる知識としてではなく、自らの実感を伴った理解として表現することができる。の4点である。	
	感情・人格心理学		オンデマンドによる講義形式で行う。パーソナリティ心理学および感情に関する基本的な諸理論を学び、性格に関する多面的な理解を持つことで、自分自身の性格についての気づきを深める。到達目標は、①人間のパーソナリティや感情に関する知識を習得し、性格に関する多面的な視点を持つことができるようになる。また、自分自身や周囲の人についても深く理解できるようになることを目指すことである。	メディア
	社会・集団・家族心理学		オンデマンドによる講義形式で行う。多様な領域にまたがっている社会・集団・家族心理学について、特に対人認知や自己認知、個人と集団等の基礎知識に焦点化し、心理臨床の現場と照らし合わせながら検討していく。到達目標は、①対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程を説明できる。②人の態度及び行動についてさまざまな理論を用いて説明できる。③家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について概説できる。の3点である。	メディア
	神経・生理心理学		オンデマンドによる講義形式で行う。脳の仕組みと精神・神経の障害について理解を深めることで、こころの問題を多面的な観点から理解し、要支援者を援助することができるようになることを目指す。具体的には、①脳神経系の構造及び機能、②記憶、感情等の生理学的反応の機序、そして③高次脳機能障害の概要、という3領域の学習を通して、こころのメカニズム、こころと脳との関連、精神疾患や神経疾患において脳が果たす役割、治療薬の脳への影響等を習得する。	メディア
	発達心理学		オンデマンドによる講義形式で行う。人は生まれてから亡くなるまで、生涯を通して発達し続ける存在である。そして、発達とは生まれ持った生物学的な資質と環境との出会い方によって、現れ方は多様である。受講者が自らのこれまでを振り返りつつ、①人が発達し続ける存在であることを理解すること、②自己および他者を理解すること、③多様な人々と共に生きていくという視点を身につけることを目的としている。	メディア
	障害者・障害児心理学		講義形式で行う。到達目標は、①代表的な障害（例：身体障害、精神障害、知的障害、発達障害等）の定義、原因、心理・行動特性、および基本的な支援方法についての知識をえて、説明することができる。②特別支援教育と合理的配慮の概要について理解し、説明することができる。③専門的文献を正確に理解し、考察することができる。の3点である。	
	健康・医療心理学		オンデマンドによる講義形式で行う。授業の目標は、a) ストレスと心身の疾病との関係について理解すること、b) 医療現場における心理社会的課題および必要な支援について理解すること、c) 保健活動が行われている現場における心理社会的課題および必要な支援について理解すること、d) 災害時などに必要な心理に関する支援について理解することである。これらの目標を達成させるための講義およびレポート課題を提示する。	メディア
	福祉心理学		オンデマンドによる講義形式で行う。授業目標は①福祉領域の課題を理解する、②福祉領域における心理学的視点を理解する、③福祉領域における心理職の実践的活動について理解するの3点である。家族や地域、社会において人々の暮らしの中で起こる様々な課題の現状と心理的側面について学ぶ。次の各テーマについて講義を行う。子育てとアタッチメント：乳幼児期に関する福祉と心理学的理解、養育の失調とその支援、カップル間の課題とその支援：ドメスティック・バイオレンス（DV）をめぐって、再婚家庭・ステップファミリーへの支援、自殺の背景の心理社会的理解とその支援、高齢者福祉に関する心理学的理解とその支援：高齢者福祉の現状と課題、災害と福祉、福祉領域における心理的支援の実践。	メディア

授 業 科 目 の 概 要				
(臨床心理学部臨床心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第II類科目	関連領域部門	教育・学校心理学	オンデマンドによる講義形式で行う。テーマは、「教育・学校心理学入門」。①教育現場において生じる問題及びその背景について説明できること、②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について説明できること、③教育現場で生じる現象を、教師の関わり、学級集団の力動、子どもの発達のあるり方など、多角的な視点から考えることができること、④教育現場における連携・協働の意義や重要性について考察できることの4点を到達目標とする。教育・学校心理学における基礎理論を学ぶことで、現代の学校現場が抱える様々な問題や課題について、主に臨床心理学の視点からどのような理解や支援が可能かを考えられるようになることを目指す。	メディア
		司法・犯罪心理学	オンデマンドによる講義形式で行う。公認心理師資格に必要な必須科目「司法・犯罪心理学」の基礎的知見を学び、司法領域における心理支援の実際、社会に生きる一人として、刑事政策や社会安全を担う自身の責任を知る。非行・犯罪という社会的問題は、実際に目にするものは少なくても、ニュース等のメディアを通して毎日のように触れる日常の問題です。犯罪や非行はなぜ起こるのか、罪を犯すのはどんな人たちなのか、どのようにすれば、その人々を理解し、自他を傷つけない人生を歩む支援ができるのか。心理学は、こうした難題にも長く挑んできた。本講座では、一人ひとりが、司法・犯罪心理学という学問と、その実践について理解を深め、非行・犯罪の防止や加害者支援、被害者支援といった問題を、「自分も取り組むべき課題」として再定義してもらうことを目指す。	メディア
		産業・組織心理学	オンデマンドによる講義形式で行う。人間の生きる活動で大切なことのひとつに“働くこと”があげられる。産業心理臨床では、その“働くこと”にまつわる様々な心理的支援を目的とし、働く人の生きがいやキャリアを支援していく。そのため、講義では、職場で起こる諸問題や職場のメンタルヘルスを知り、心理的支援の実践を具体的に知る。達成目標は、(1)「働くこと」について興味をもち、自らのキャリアについて考えることができること、(2)働くひと、社会、職場など、産業場面における諸問題を産業・組織心理学の視点から説明できること、(3)産業心理臨床を裏付ける知識を理解し、実践のあり方について考察できること、の3点である。	メディア
		人体の構造と機能及び疾病	オンデマンドによる講義形式で行う。テキストは、公認心理師コースにおける使用を意図した作成されたものを選択する。総論としては、医学一般の概念、対象、方法論を解説する。各論としては、循環器系、呼吸器系、消化器系、免疫系など、器官系ごとに、その機能と疾患、治療について解説する。現時点において、実際に心理専門職が活動している領域については、臨床例を提示し、心理専門職が担うべき役割について解説する。さらに、関心をもった領域に関する自己学習とレポート作成を求める。	メディア
		精神疾患とその治療	対面とオンデマンドによるハイブリッド形式で行う。「精神医学の方法論、対象領域、精神疾患、治療論などの基礎的な知識を全般的に学んだうえで、特定のテーマについて興味・関心をもつ」をテーマとする。まず、指定したテキストに沿って、精神医学を網羅的に解説する。この際、学生の関心を高めるために、プライバシーに配慮しつつ、実際の臨床例をできるだけ多く提示することを心がける。また、関心を抱いた特定のテーマに関する自己学習とレポートを作成を求める。	メディア（一部）
	応用部門	心理療法論A	講義形式で行う。授業の到達目標は、①深層心理学の全体像と各学派の基本的な考え方を説明できること、②深層心理学に基づく心理療法の理論と技法を説明できること、である。心の深層に焦点を当てた深層心理学の諸概念を学び、セラピストとクライアントの相互作用や心理療法の治療機序を理解していく。ケースのエピソードを数多く取り上げて紹介することにより、深層心理学の諸概念を実際の臨床場面で活用できる有用な視点として身につけることを目指す。	隔年
		心理療法論B	対面とオンデマンドによるハイブリッド形式で行う演習科目である。心理学・心理療法の一つの考え方である人間性心理学を主題とした講義。人間性心理学の基本的な理論と視点について説明できること、人間性心理学的なもの見方について自分なりの考え方を説得的に提示できることを目標とする。人間性心理学の諸流派について紹介するとともに、その背景にある思想や、周辺のテーマに関して、学生が主体的に考えることができるよう問いを提示しつつ講義する。	メディア（一部） 隔年
		心理療法論C	対面とオンデマンドによるハイブリッド形式で行う演習科目である。授業目標は①家族療法の基礎理論を理解することができる、②家族療法の臨床実践を体験するの2点である。次の各テーマについて講義・演習を行う。家族療法の基礎理論（家族システム論）、家族療法のアセスメント（ジェノグラム等）、家族療法の各学派の理解（構造派、コミュニケーション学派、多世代派、ミラノ派）、家族療法の発展（ナラティブセラピー、ソリューションフォーカストセラピーなど）、家族療法におけるクライアントとの関係づくり、家族療法における介入技法、家族療法の実際。	メディア（一部） 隔年

授 業 科 目 の 概 要					
(臨床心理学部臨床心理学科)					
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
第II類科目	応用部門	心理療法論D		オンデマンドによる演習形式で行う。授業の目的は、学生が認知行動療法の理論、技法、エビデンスを理解し、認知行動療法を実践できるようになることである。認知行動療法は、知識を学習するだけでは実践できず、具体的なワークをおこなう訓練が必要である。授業では、講義に加えて認知行動療法のワークを取り入れたレポート課題を提示し、学生に認知行動療法を実践的に教育する。	メディア 隔年
		臨床心理学特論A		講義形式で行う。コミュニティ心理学のアプローチは、個人にだけでなくその個人に取り巻く環境（家族、学校、職場、地域社会などのシステム）へも働きかけ、治療よりも予防を重視する。そのため、本講義では、コミュニティ心理学に関する基本的発想や理論、介入方法について具体的に知る。	隔年
		臨床心理学特論B		演習形式で行う。心理臨床におけるアセスメントの基本的な視点を知り、根拠を持つ的確に当事者の置かれた状況を想像する力を身につけることを通して、具体的な支援につなげていくための包括的なアセスメントについて学ぶ。到達目標としては、① 生物・心理・社会的要因とは何か、具体例を挙げて説明できる② 臨床におけるアセスメントについて、自分なりに説明することができる③ ジェノグラム・エコマップ、見聞きした情報を手がかりに、当事者の状況を自分なりに述べる④ 生物-心理-社会的視点から、事実を根拠として事例の見立てを行うことができる⑤ グループで協働しながら、事例の見立てと支援計画を行うことができる、の5点を挙げる。	隔年
		臨床心理学特論C		演習形式で行う。若者のひきこもり問題を取り上げ、さまざまなメンタルヘルス問題が生物-心理-社会的な要因から形成されていることを理解する。また、的確なアセスメントに基づいた治療・支援が必要であることを理解するとともに、個々のケースや課題に応じた治療・支援のあり方、予防的早期支援の視点、支援体制づくりなど、ひきこもり問題について包括的に理解する。	隔年
		臨床心理学特論D		演習形式で行う。授業の到達目標は、地域社会のメンタルヘルスについての理解を深めることである。我々が生活する社会では、保健医療福祉的な支援が不可欠な人々が多く存在しながらも適切な支援が行き届いていない現状がある。これらの諸問題についての専門的知識を学び、幅広い視野から地域社会におけるメンタルヘルスの知識を学び、課題を理解できることを目指す。	隔年
	心理専門職養成プログラム	関係行政論		オンデマンドによる講義形式で行う。健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野の5領域の法律や制度等について理解を深めるとともに、それらを実際に活用するための考え方について学ぶ。到達目標は、①5領域の法律や制度等について、基礎的知識を学び、概略の説明ができる。②各領域で生じる心理臨床的課題について、法律や制度等の関わりにおいて、的確な理解をし、意見を述べる③私達の生活における法律や制度等の意義と役割について、的確な理解をし、意見を述べる④各領域の3点である。	メディア
		心理演習Ⅰ	○	演習形式で行う。心理演習Ⅰでは、ロールプレイや事例検討を通して、心理援助に関する知識及び技能の修得を目指す。コミュニケーションの技術の理解、心理面接のロールプレイングについて実践的に学ぶ。主に言語の技法を体系的に理解し、支援に関するニーズを把握しアセスメントしながら支援計画を作成する。	共同
		心理演習Ⅱ	○	演習形式で行う。心理演習Ⅱでは、ロールプレイや事例検討を通して、心理援助に関する知識及び技能の修得を目指す。投射法を含む心理検査、プレイセラピー、地域援助のチームアプローチについて実践的に学ぶ。主に非言語の技法を体系的に理解し、支援に関するニーズを把握しアセスメントしながら支援計画を作成する。	共同
		心理臨床査定演習		演習形式で行う。教員の講義、実習、学生の発表や回答といった内容で構成されている。テーマは体験学習を通じた心理検査に関する知識と技能の習得である。心理査定を主たる検査を実際に体験し結果の考察を行うことができる、を到達目標とする。実際の心理臨床の場面で使用されている主な質問紙検査・投影法検査について、実習を通して学ぶ。各検査の概要を分担して発表してもらい、全員が実際に検査を体験し、レポートを作成する。	
		心理臨床技法演習		演習形式で行う。演習で実際に技法を体験することや、技法を導入した事例論文を読み、「心理支援に関する技法について、基本的な施行法を理解する」「各技法の特徴について述べる」「心理面接において技法を用いることの意味を適切に説明する」「技法を用いる際の留意点を説明する」ことを到達目標とする。演習によって体験したことをグループで相互に報告し、討議することを通して、各自の気づきを知識と理解へ結び付ける。スクイグル法、コラーージュ法、箱庭療法など主要な技法を演習形式で学ぶ。既存の臨床技法を理解することにとどまらず、さらに事例にあわせて臨床技法の用い方を工夫したり、新しく技法を創出したりする臨床場面での実際について、事例論文の講義を通して理解する。	隔年

授 業 科 目 の 概 要					
（臨床心理学部臨床心理学科）					
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
第Ⅱ類科目	心理専門職養成プログラム	心理実習	実習形式で行う。心理支援の実態を理解する実習活動・見学等について相互に報告し、検討、指導を受けることで、よりよい支援を修得することを目的とする。「心理支援の現場における実習活動や見学等を通して、心理支援の意義について説明できる」「心理支援を要する者へのチームアプローチを説明できる」「多職種連携および地域連携を説明できる」「公認心理師としての職業倫理及び法的義務を説明できる」を到達目標とする。医療機関での見学実習を必須とし、1つの実習機関における継続的な実習、または複数機関の見学実習を行う。これらの実習経験を通して学んだことをまとめて毎回実習記録を提出し、その指導を受けると共に、相互に報告検討し合うことで、臨床の主要5領域（保健医療・教育・福祉・産業同労・司法犯罪）における心理支援を理解する。学期末に、実習成果の発表と実習報告書の提出を課す。	共同	
		ライフキャリア・マネジメント総論	○	講義形式で行う。授業の到達目標は、人生のライフキャリアを生涯発達心理学やポジティブ心理学の視点から理解し、自ら生涯の生き方を主体的にマネジメントできることにあることである。様々なキャリア発達理論をふまえて人生課題に沿ったライフキャリアの形成について理解し、多様性社会の中での職業選択、社会・家族・集団の中で健康的に生きていくあり方を考える。	
		ライフキャリア研究		講義形式で行う。授業の到達目標は、ライフキャリアマネジメントに関する臨床心理学研究のアプローチを理解し、論述する知識を得ることである。社会と共に生きる人をライフキャリアの視点から捉え、様々な働き方や家族のあり方、多様性社会の中での多角的なキャリア形成について、心理学の視点からまとめる方法を学ぶ。	隔年
		ファミリーキャリア入門		講義形式で行う。授業の到達目標は、家族のライフステージにおける諸問題をファミリーキャリアという視点から理解し、自ら主体的にマネジメントできるようになることである。しあわせな人生を歩むための「健全な家族関係」と働き方について考えていく。恋愛と結婚、パートナーシップの多様性、未婚・非婚、妊娠・出産と女性の就労、育児と夫婦関係、共働きと家族関係、家族の家事分担、離婚とひとり親家庭の困難、親の介護など、家族をめぐる様々なトピックに焦点を当て、ファミリーキャリアを意識化することを目指す。	隔年
		青年心理学		オンデマンドによる講義形式で行う。生涯発達における青年期の位置づけと、青年期と関連の深い心理学理論を学ぶ。到達目標は、①青年期が主に発達心理学や臨床心理学領域においてどのように取り扱われてきたのかを理解し、自分なりに説明できるようになること②青年期に関する学問的な知識を身につけるだけでなく、受講生自身がこれまでの自身の体験と知識を照らし合わせることで、青年期の心性や問題について考える姿勢が身につくこと、の2点である。	メディア
		老年心理学		講義形式で行う。授業の到達目標は、高齢者心理に対する理解と対応の在り方を学び、様々な局面で高齢者の幸福に寄与することのできる実践的知識を得ることである。老年期には、特有の生物・心理・社会的な課題が存在し、心理学的、精神医学的にも様々な問題が表面化する時期である。これらの諸問題についての専門的知識を学び、幅広い視野から老年期の心理と課題を理解できることを目指す。	隔年
		コミュニケーション心理学		参加型の講義形式で適宜ロールプレイを行う。人はコミュニケーションをとりながら社会や集団の中で生きている。人間関係を円滑にし、相手との信頼関係を築くためには、コミュニケーションを上手に行うことは必須です。授業では、相手も自分も大切にすることをコミュニケーションである“アサーション”について、理論と方法を学ぶ。	隔年
		対人サポート演習		演習形式で行う。他者を支える力は、大きな困難に直面している人に対してばかりでなく、お互いが健康で幸せな社会生活を営むために必要とされるものである。このような視点から、日常の家族、友人、地域社会の中で活用することのできる対人サポートスキル、ストレスマネジメント、セルフコントロール技法などを体験を交えて学ぶ。	共同
		グループプロセス演習		演習形式で行う。家族、職場をはじめ、私たちの生活では、一対一よりも集団の中で人と関わることが多い。そうした集団の中での人との関わりは、集団力動の影響を受け、また個々の関りが集団の力動に影響を与えながら信仰していく。ここでは、構成的エンカウンターなどのグループ活動実習を交えながら、グループプロセス（ダイナミクス）を学ぶ。	共同
		卒業論文	○	演習形式で行う。3～4年次を通じた専門演習において、担当教員が指導する。3年次においては、専門的課題に関する資料収集の方法、問題整理のための基礎技法を学びながら、各人のテーマを明確にしていく作業を行う。4年次においては、各人のテーマを深め、資料の読み込み、方法論の検討などを通じて、卒業論文として具体化する作業を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(臨床心理学部臨床心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	卒業研究	○	演習形式で行う。3～4年次を通じた専門演習において、担当教員が指導する。3年次においては、専門的課題に関する資料収集の方法、問題整理のための基礎技法を学びながら、各人のテーマを明確にしていく作業を行う。4年次においては、各人のテーマを深め、資料の読み込み、方法論の検討などを通じて、卒業研究として具体化する作業を行う。	
第Ⅲ類科目	アントレプレナーシップ育成教育プログラム	超スマート社会論	オンデマンドによる講義形式で行う。未来の社会は仮想空間と現実空間が高度に融合し、人々が生き活きと活動し、快適に暮らす社会が実現すると言われている。人とロボット・AIとの共生、多様なニーズに合わせたサービスの提供とサービス格差の解消、新しいコミュニティの創造など新たな価値が生み出される。しかし、一方で様々な問題も起きてきている。超スマート社会を実現する様々な技術や社会の動向を学び、私たちの生活がどのように変わるのか、そのような社会で私たちはどう活躍し、貢献できるのかを考える。	メディア
		新共生社会論	オンデマンドによる講義形式で行う。他者とのつながり、地域との交わり、モノとの関係性、あるいは先人たちとの関係性をもって、「私」が存在している。この世界が「関係性」で成立している以上、私たちが無関係ではいられない。様々な現場に関わる人々の活動をふまえ、彼らの原動力がどこから生まれてくるのかを知り、また、私たちがどのように主体的に関わっていくのか、などについて「自分ごと」として学ぶ。講義を通して、「これからの自分はどうかあるべきか」「新しい価値をどう生み出していくのか」などの意識を高め、次代のアントレプレナーとしての原動力を育むことを目的とする。	メディア
		地域人イズム論	オンデマンドによる講義形式で行う。地域を支え、多様な立場で地域を創造する全国の「地域人」の生き方・働き方を取り上げ、これから自分自身がどのような「地域人」像を描きながら、生きていきたいかを探究する。 全国の「地域人」の生き方・働き方、価値観、ライフストーリーに触れ、地域で生きることの面白さ、魅力に出会い、自分自身が目指したい将来の「地域人」像を描き、「地域人」とは何か、自分自身がなりたい「地域人」とはどのような姿か、他者に伝えられるように言葉にする。	メディア
		アントレプレナーシップ論	オンデマンドによる講義形式で行う。停滞する日本社会では新しい価値を創出するイノベーションが求められている。起業家をはじめ実社会で活躍する企業人の事例に多く触れて、講義を通じての質疑や意見交換の中から、経済社会で活動するにあたり必要とされる基本的な基礎知識を理解し、実際に生かせるようにする。加えて起業への興味・関心を持ち、実際のビジネスプラン策定に必要な心構えや専門知識及び準備の手順を理解し、新たな価値を提供し社会に貢献するために必要なアントレプレナーシップを身につける。	メディア
		ロジカルシンキング	講義形式で行う。ロジカルに考える思考力とビジネスで活用できる各種フレームワークを組み合わせた課題解決の手法を学ぶ。 直感や感覚的に物事を捉えるのではなく、筋道を立てて矛盾・破綻がないように論理的に考え、結論を出すロジカルな思考法はビジネスにおいて重要なスキルである。複雑な情報や自分の意図を、相手に的確にかつすばやく伝えるための必要な考え方を個人、グループワークを通じて学び、より実践的に学びあう。	
		データ分析技法	講義形式で行う。大量のデータが得られるようになった現代では、データをもとにした意思決定やアクションを行う必要性が業界問わず増している。「課題設定→分析設計→データ整備→データ分析→結果解釈/施策検討」というデータによる意思決定の進め方についての一連の流れを学ぶ。 店舗の実データをを用いて、「どのような課題を解決すべきか（課題設定）」「どのような分析を行うか（分析設計）」「分析結果からどのようなアクションにつなげるか」を多数の演習やグループワークを交えて実践的に学び、データドリブンな意思決定を進めるための礎を体得する。	
		プログラミングの基礎	講義形式で行う。コンピュータの特徴を踏まえ、プログラミング的な思考を習得することを目的とし、プログラミングの基本的な構文を学習する。 プログラミングツール「Scratch」を使用し、様々な指令を与えて具体的な反応を見ることを通じてプログラミング的な思考を学ぶ。さらに、ヒアリング要件をもとにプログラムを設計し、ロボットに実装し運用までを試み、実践的にプログラミングとアルゴリズムを修得する。	
		ファイナンスの基礎	講義形式で行う。社会においては、あらゆる事業体が社会の変化に対応してイノベーションを起こし、持続可能なものにしていくことが求められており、それゆえファイナンスの知識を具現していることが不可欠である。 経済活動のしくみとその内容、意味、歴史的背景や問題点を考察しながら、産業の育成や起業の在り方を検討し、国際社会の動向とその影響、市場メカニズムの意義と限界を理解するとともに、国内においては人口減少及び資金調達方法の多様化にともない激変する金融システムも理解しながら、的確なファイナンス手法とは何かを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(臨床心理学部臨床心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅲ類科目	アントレプレナーシップ育成教育プログラム	財務会計の基礎	講義形式で行う。「財務諸表」と「経営」を結び付けて考えることが出来る人材へのニーズは非常に高まっている。また、将来経営者として、自身の経営する会社の持続可能性を高めるうえでも大変重要なポイントになる。企業活動の結果である「財務諸表」の数字から、どのような企業活動を進めていたのか、「財務諸表」を身近にしていく事を目的とする。 様々な企業の「損益計算書」や「貸借対照表」の数字について、様々な視点から考察しながら、グループ討議等により他者の視点を	
		マーケティングの基礎	講義形式で行う。マーケティングの基本用語や機能についての理解をもとにして、デジタルマーケティングをはじめとする近年のマーケティング実践を、実例を踏まえて学ぶ。デジタルマーケティングにおいても、顧客理解を起点としてものごとを考えると、マーケティング思考の重要性は変わらない。実社会の企業や組織の発展やヒット商品の誕生などの要因分析や、商品開発、起業などの場面で、自ら活用・実践できるようになることを目的とする。	
		言語表現技術Ⅰ	講義形式で行う。コミュニケーションに必要な「ことば」を改めて取り上げ、ことばの力を知り、自分らしい「伝わる表現力」を習得する。 具体的な事例や自分の周りの出来事から何を感じ、何が問題なのか、どう解決できるかを考え、日頃の問題意識から社会を見る目を養う。それらの視点を意識したうえで、コミュニケーションの表裏である「きく」を実践する。実際にインタビューを行うことで、何をきくのかの大切さ、事実をきく重要性を学ぶ。また、いろいろな意見から真実にたどり着くには何が必要か実践と討議により考える。	
		言語表現技術Ⅱ	講義形式で行う。事実を見る目、思考力を養い自己発信力、きく力を身に付けコミュニケーション力を向上させ、人的ネットワークを広げるためのスキルを身につける。 相手に伝わる表現力、相手を理解するインタビュー力を身に付けるには何が必要かを、身近な社会現象、自分の生活体験を通して考え、演習を重ね、「話す」、「きく」力＝表現力を磨いて円滑なコミュニケーション力を身に付け、ひいては人的ネットワークの構築力を高める。	
		情報表現技術Ⅰ	講義形式で行う。地域や企業の情報発信における課題を解決するために、文章や画像、動画といったデジタルコンテンツの企画・制作に関する技術を学ぶ。 誰もがデジタルメディアを通じた情報発信にかかわるようになった現場の課題に応えるスキルを実践的に学ぶ。 ワークショップとグループワーク、発表、講評の繰り返しを通じて、文章や画像、動画といったデジタルコンテンツの企画・制作に関するスキルを身につける。	
		情報表現技術Ⅱ	講義形式で行う。運営者になったつもりでコンテンツを企画・制作したりといった活動を、ワークショップ形式で実施する。 情報表現技術Ⅰで身につけたスキルを活用し、デジタルコンテンツの流通する主たるメディアであるソーシャルメディアの性質やファンコミュニティの特徴について学び、実践的なりサーチをおこない、活用するスキルを身につける。	
		キャリア探究A	講義形式で行う。大手企業から中堅企業まで様々な経営者または経営管理者層から、企業経営の実際について体験に基づいた話（企業の役割、業種の多様性、業界の動向、経営理念、経営戦略、経営者の役割とマネジメント）を中心に、今後求められる人材像をテーマにグループワークを行い、働くことの意義や仕事（職業）の選択の考え方について議論し、将来のキャリアを探究する。	
		キャリア探究B	講義形式で行う。中小企業の経営者が企業経営の実体験に基づいて語る中小企業の役割、業種の多様性、経営理念、経営者の役割とマネジメントなどを題材にグループワークを行い、働くことの意義や仕事（職業）の選択の考え方について議論し、将来のキャリアを探究する。	
		キャリアデザインA	講義形式で行う。将来のキャリアビジョンを描き、実現するための一歩である。自己理解を深め、自分らしいキャリア構築を実現するために具体的なアクションプランを策定すると同時に、目標達成にむけて必要なスキルを毎回の実践的トレーニングを通し高め、最終的には社会で求められる資質・能力を培う。	
		キャリアデザインB	講義形式で行う。人生100年時代と言われる中、自ら課題を見つけ、解消していく力が求められている。その課題を解決するために「自分とは」「社会とは」を考え、今後の人生を生き抜く「自分軸」を確立することを目的とする。また、社会で良質な陣限関係を構築するために、他者と協働するためのリーダーシップ・対人コミュニケーション力をケーススタディを含む実践的なワークの中で身につける。	

授 業 科 目 の 概 要					
(臨床心理学部臨床心理学科)					
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
第Ⅲ類科目	アントレプレナーシップ育成教育プログラム	コミュニケーション		講義形式で行う。多様な価値観が様々な方法で飛び交う時代に、コミュニケーションスキルは最も重要なスキルの一つである。1対1、複数対複数、ワークショップ形式、ビジネスシーン等のシチュエーションに基づいた重要要素、スキルの理解とグループワークでの実践を通じて、今後のビジネスや社会生活において有用な知識の習得する。 様々なシチュエーションを想定し、社会に出てからも“使いこなせる”オンライン・オフラインを問わない万能なコミュニケーションスキルを基礎と実践で学ぶ。	
		リーダーシップ		講義形式で行う。新たな価値を生み出すための変革を実現するために、自らが主体となって様々な人たちを巻き込み、動機づけ、社会課題に挑戦するリーダーシップのあり方やスキルについて学ぶ。 加えてモチベーション理論や関連した行動科学の理論を学び、身近な組織や自分が所属する集団の状況をこれらの理論に当てはめて分析することで、リーダーシップの有効性と集団の状況との関係を考える。 様々なリーダーシップ理論を援用して、自分自身の行動スタイルやリーダーシップを発揮できるようになることを目的とする。	
		ファシリテーション		講義形式で行う。現実社会で難しい状況にもひるまず臨むファシリテーション力を身につけ、多様な価値観・背景をもつ参加者が、目的の実現に向けて、限られた時間の中で合意形成し、解決策を考案することを目的とする。 「お互いを知り合う」ことから始め、現状の問題意識、将来への思い、テーマ設定、合意形成、解決策決定など、段階に応じた話し合いを実践する。これらのグループワークを通して、必要最小限のファシリテーション知識を確認したうえで実践練習し、振り返り、様々な手法を身につける。	
		プレゼンテーション		講義形式で行う。プレゼンテーションの概念、作成方法および発表手法を学び実践することで、相手に伝わるアウトプット（言語化・表現手法）スキルの習得を目的とする。 プレゼンテーション＝単なる発表・報告ではなく、ビジネスシーンにおいて必要とされるプレゼンテーション（相手を動かす、目標を達成する）について理解し、構成の作り方・デザインスキルを身につける。また、ターゲット・目的・シチュエーションに合わせてプレゼンテーションの構成を自分の力で組み立て、伝えたいことを論理的にまとめ、言語化する力を培う。	
		マネジメント		講義形式で行う。企業やNPOといった組織が期待に応える成果をあげていくためになされる活動の背景にあるマネジメントの基礎を学び、実践するための継続学習の起点を作る。 マネジメントとは何か、その目的、役割は何かのようなことをすればよいのかを事例や演習を通じて全体像を習得する。事業を立ち上げる土台となるマーケティングとイノベーションの位置づけと関係、アントレプレナーシップに基づく戦略の習得にもウエイトを置き、バランスの取れたマネジメントを学ぶ。	
		ビジネス英語		演習形式で行う。世界のビジネスシーンでいま何が起きているのか、また国際社会での日本の立ち位置について理解し、学生自らがそれらのテーマについて主体的に思考する機会を設ける。 授業はAll English、すなわち英語で行われる為、学生の基礎英語力をビジネスに必要な英語コミュニケーション力へとブラッシュアップすることを目的とする。具体的には、英語でビジネスについてのインプットを行い、身に付けたビジネス英単語や表現方法を活用しながら英語でのアウトプットにも挑戦する。	
		ビジネス中国語		演習形式で行う。グローバルビジネス現場で使われる中国語コミュニケーションの理論、基礎知識、実践能力を学ぶ。 中国ビジネスをみていくうえで必要なビジネスコミュニケーションの基礎を学び、具体的な中国語ビジネスコミュニケーションスキルを場面別に学習する。さらに、基礎と応用能力を融合させ、実践的なビジネスコミュニケーション能力を身につける。	
		マイスターワークショップ		新しいビジネスの開拓、既存の仕事や事業の改革、人やコミュニティづくりなど新しいことに一歩を踏み出し、社会に貢献できる能力を「知識」と「実践」の融合により修得する。 様々な分野で活躍する方々との対話を通して、地域を題材とした学びと活動を一体化した実践的な学びを行い、新しいことにチャレンジするアントレプレナーシップの修得し、地域戦略人材となることを目的とする。	
		マイスターフィールドワーク		サテライトキャンパス（南三陸、京都、藤枝、淡路、阿南）や付置研究所の地域構想研究所の地域支局を活用してフィールドワークを実施し、現地の自治体、NPO、企業、教育機関などと協働し、地域の課題可決に取り組む。 地域に関するデータの収集・整理・分析を通じて、地域の課題を発見し、改善・解決するための方向性を構想しながら活動計画を立て、実行するための手法を身につける。これまでの「知識」を「実践」の場で活用できることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(臨床心理学部臨床心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅲ類 科目	アントレプレナーシップ育成教育プログラム	マイスターインターンシップ	インターンシップは、国内における様々な組織で実施されている仕事を体験し、労働の意義・倫理等を自ら気づき、職業への意識や理解を高め、社会人としての必要な技能を培うと共にキャリアを考えることを目的とする。 企業実習にあたっては事前に必要な業界研究・企業研究を実施する。実習では日々の気づき、体験を通じて得られた知見、その課題などについて毎日リフレクションを行い、実習レポートを取りまとめる。それらの経験を発表、グループで共有し、将来のキャリアに繋げていく。	
		短期留学	グローバル化の進む世界にあって、国内外を問わず、異文化理解、外国語習得、国際的活動に必要なコミュニケーション能力が強く求められている。 海外での短期研修を通じて、異文化・多文化環境への適応力の養成と、外国語による実践的なコミュニケーション力の向上を図り、多文化社会において実力を発揮できる自信を体得することを目的とする。	
		海外インターンシップ	海外での就業体験を通じて、国際的なビジネスにおける職業への意識や理解を高め、リーダーシップやチームワークを実践的に学び、グローバルな知見を広げる。また、複数業種の海外企業を視察して様々な働き方を知り、自分のキャリアを考える。	

学校法人大正大学 設置認可等に関する組織の移行表

令和4年度			入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	令和6年度			入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由		
大正大学							大正大学								
仏教学部	仏教学科	100	33	3年次 466		→	仏教学部	仏教学科	100	33	3年次 466				
社会共生学部	公共政策学科	130	-	520					0	-	0		令和6年度4月学生募集停止		
	社会福祉学科	65	2	3年次 264					0	-	0		令和6年度4月学生募集停止		
心理社会学部	人間科学科	120	2	3年次 484					0	-	0		令和6年度4月学生募集停止		
	臨床心理学科	110	2	3年次 444					0	-	0		令和6年度4月学生募集停止		
							人間学部	人間科学科	120	2	3年次 484		学部の設置(届出)		
								社会福祉学科	65	2	3年次 264		学部の設置(届出)		
							臨床心理学部	臨床心理学科	110	2	3年次 444		学部の設置(届出)		
文学部	人文学科	65	2	3年次 264			文学部	人文学科	65	2	3年次 264				
	日本文学科	70	2	3年次 284				日本文学科	70	2	3年次 284				
	歴史学科	160	2	3年次 644				歴史学科	160	2	3年次 644				
表現学部	表現文化学科	205	-	820			表現学部	表現文化学科	80	-	320		収容定員変更(△500)		
								メディア表現学科	155	-	620		学科の設置(届出)		
地域創生学部	地域創生学科	100	-	400		→	地域創生学部	地域創生学科	100	-	400				
								公共政策学科	100	-	400		学科の設置(届出)		
計					1125	45	4590	計					1125	45	4590
大正大学大学院							大正大学大学院								
仏教学研究科	仏教学専攻(M)	30	-	60			仏教学研究科	仏教学専攻(M)	30	-	60				
	仏教学専攻(D)	7	-	21				仏教学専攻(D)	7	-	21				
人間学研究科	社会福祉学専攻(M)	5	-	10			人間学研究科	社会福祉学専攻(M)	5	-	10				
	臨床心理学専攻(M)	18	-	36				臨床心理学専攻(M)	18	-	36				
	人間科学専攻(M)	3	-	6				人間科学専攻(M)	3	-	6				
	福祉・臨床心理学専攻(D)	3	-	9				福祉・臨床心理学専攻(D)	3	-	9				
文学研究科	宗教学専攻(M)	5	-	10			文学研究科	宗教学専攻(M)	5	-	10				
	宗教学専攻(D)	2	-	6				宗教学専攻(D)	2	-	6				
	史学専攻(M)	10	-	20				史学専攻(M)	10	-	20				
	史学専攻(D)	2	-	6				史学専攻(D)	2	-	6				
	国文学専攻(M)	3	-	6				国文学専攻(M)	3	-	6				
	国文学専攻(D)	2	-	6				国文学専攻(D)	2	-	6				
計					90	-	196	計					90	-	196